


「話し合う」からの取り組み～Aさんの暮らしから～

市民より寄せられる相談には、認知症や介護、生活困窮、ひきこもり等生活に困りごとを抱えた方や、そのご家族、また地域に住む方からの心配ごとなど多岐にわたります。だれもが住みよい地域で自分らしく生活ができるよう、制度やサービスを活用しながらも地域に住もう一人ひとりの「できること」の力合わせによって実現をめざします。

「最近忘れることが多いけど、長年住んできた地域だからこれからはいいことで過わすつてしまいたいなあ。」



Aさん

相談を受けて、支援センター職員がAさん宅へ訪問

一年前に妻を亡くし、閉じこもりがちになっていたAさん。近頃もの忘れからかゴミ出しの日を間違え、捨てられないゴミ袋が庭先に少しずつ増えています。

支援センター窓口にて

そんなAさんを心配する地域住民の方が窓口へ相談にられました。

1
2
3
4

その後Aさんは地域の方の協力を得ながらサロンに通うようになりました。Aさんをきっかけに、地域では「見守り会議」が開かれるようになり、住民みんなの安心にもつながっています。

Aさんの暮らしを支えるため、民生委員や地域住民、福祉専門職等が集まり、話し合いの場を持つことになりました。

Aさんの暮らしを考える地域ケア会議

認知症を正しく学ぼう

地域のサロンに誘ってみようか

Aさんのような人が他にもいるかも

地域でお互いに見守れる方法を考えよう

Aさんのことだけでなく、みんなが「我がごと」として気になってきたことをそれぞれに出し合いながら、地域でどうなうかを話し合いました。

地域で支え合いの輪を広げていくため、今後も住民の方々と連携して支援していきます！

「知る」からの取り組み～一緒に考えてみませんか～

当事者の思い、家族の思いをまわりの人が理解し気づくことによって、何かがかわるかもしれません。「身近な人が認知症」「ひきこもりの家族がいる」など、家族、支援者、地域それぞれの立場で考えることを目的に、さまざまな学びの機会を提供しています。正しく知って、受け止め合い、支え合える地域をすすめています。

権利擁護「ひきこもり」講演会



認知症サポーター養成講座



出張ふくし教室

